

全学共通科目：
「大学図書館の活用と情報探索」



第1回： 大学図書館の魅力と研究活動

松井啓之
図書館・副機構長
経営管理大学院

【留意事項】著作権法35条及び2020年度の特例措置により、著作物は、学校等における授業に使用する場合に例外的に無許諾・無償で複製及び公衆送信することが出来ます。本資料は同法上の著作物を含む場合がありますので、本資料の全部または一部を他人に貸与・販売したり、インターネット上に再アップロードしたりすることを禁じます。





はじめに

- 2020年度は、新型コロナウイルスへの対応のために、大学の授業も例年とは全く異なるものとなりました。
- 大学図書館も例外ではなく、数多くのサービス（閲覧、貸し出し）を中止しています。そのため、学生への教育・研究支援が十分にできておらず大変心苦しいです。
- これまで当たり前とされていたルールや仕組みの見直しが必然とされ、大学の授業だけではなく、図書館についても、新しい姿が求められています。
- ぜひ、学生の皆さんも、新しい図書館づくりに参加して欲しいと思っています。

講義の目的と内容（１）

- 講義の目的
 - 理系・文系双方にわたる専門分野の異なる教員陣によって、各分野における情報の組織化と活用方法の歴史や現在について講義を行う。その上で、図書館職員のサポートのもと、図書館やデータベースなどの文献検索ツールの演習を行い、レポート作成や発表などのアウトプットにつなげる。
- 講義の内容
 - 「大学図書館の魅力と研究活動」（講義）
 - 「資料調査の入り口」（講義・演習）
 - 「情報の組織化と検索：理論と実際」（講義・演習）
 - 「インターネット検索の落とし穴とデータベースの活用方法（講義・演習）」
 - 「総合演習」

講義の目的と内容（2）

「大学図書館の魅力と研究活動」

- 講義の目的
 - 高校までの図書館や地元の公立図書館とは全く違う、大学図書館の魅力と研究活動を理解する。
- 講義の内容
 - 図書館とは何か
 - 大学図書館とは→「図書館は大学の心臓である！」
 - アーカイブ（保管・活用・未来へ伝達）→研究＋教育
 - 研究に向けて大学図書館の意義や価値を考える。
 - 図書館が収集し提供する文献や情報（図書、雑誌、データベース等）の概略や特性について紹介する。
 - 新しい大学図書館を模索する。



図書館とは

- 図書館 (library) = 「図書」を保管する建物
 - 図書 = 地「図」 (図版) + 「書」 籍：造語
 - 司書 (Librarian) : 図書館情報学の知識を身につけ、図書館に固有のサービスに従事する図書館の専門的職員
- 博物館 (museum)
 - 基本的に価値のある「実物資料」を取り扱う：非定型
 - キューレーター (curator) ・ 学芸員：収集する資料に関する鑑定や研究を行い、学術的専門知識をもって業務の管理監督を行う
- 公文書館 (archives)
 - 歴史的な史料としての公文書を保管し、公開する。
 - アーキビスト (Archivist) : 永久保存価値のある情報を査定、収集、整理、保存、管理し、閲覧できるよう整える



あなたにとっての図書館とは？

- 読書の場合
- 自学自習の場合
- 貴重な資料に出会える場合
- 思索の場合
- 議論や会話の場合
- 最先端の研究成果に出会える場合
- 研究のスキルを知る場合
- 論文執筆の場合

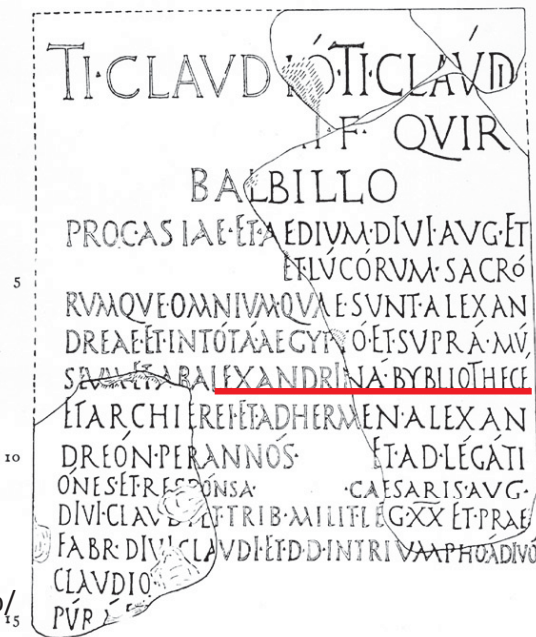


図書館の歴史（1）

- BC7世紀：アッシリア王アッシュールバニパルの宮廷図書館：粘土板の図書館
- BC3世紀：アレクサンドリア図書館
 - 古典古代における最高の学術の殿堂
 - ギリシャのリュケイオン（アリストテレス学園が開設された場所）の学術を学ぶための施設



<https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/thumb/6/64/Ancientlibraryalex.jpg/440px-Ancientlibraryalex.jpg>



リュケイオン
＝レクチャーの語源

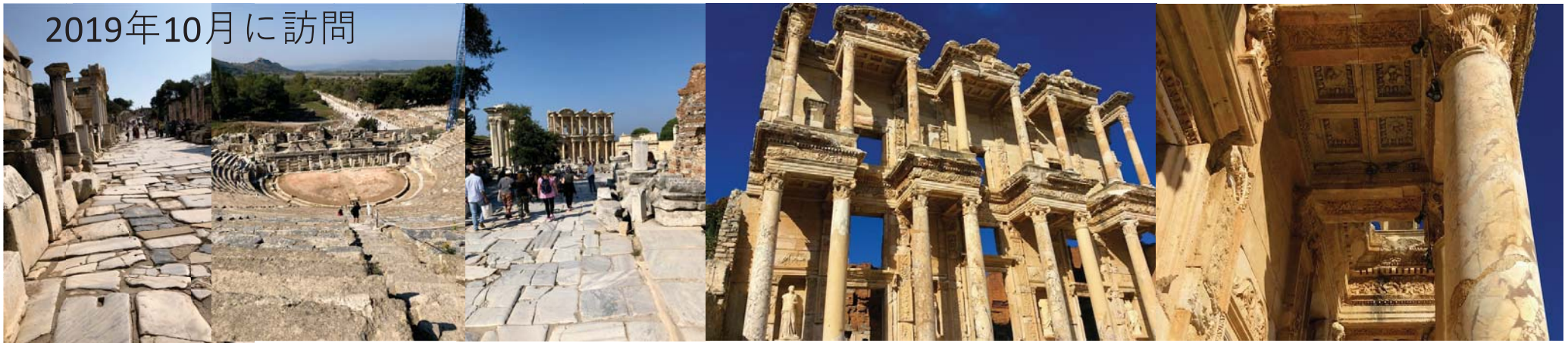
AD56：アレクサンドリア図書館に言及したラテン語の碑文

https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/8/8b/Alexandria_Library_Inscription.jpg

図書館の歴史（2）

- 古代世界三大図書館
 - アレクサンドリア図書館（アレクサンドリア，40万巻）
 - ペルガモン図書館（ペルガモン，20万巻）
 - 蔵書拡張のため、エジプトからパピルスの輸出が止められ、羊皮紙を生産。羊皮紙（parchment, vellum）の語源
 - ケルスス図書館（エフィソス，12000冊）
 - 177年開設、262年の地震と火事で喪失。エフェソスは、ローマ時代の都市遺跡のなかでも群を抜いて保存状態が良い。
 - クレオパトラとアントニウスが滞在。聖母マリアが余生を送った。

2019年10月に訪問



図書館の歴史（3）

• 中世ヨーロッパ・ユーラシア

• 修道院・教会・寺院の資料室

- 写本一冊で家を買うほど高価

- 学術研究用に資料を集めた場として、学者（聖職者）や貴族以外の者は利用できなかった。



神学校/図書館

知識の伝達・継承

• 印刷技術の登場→本の大量生産が可能

⇒「誰もが無料で（利用可能な）」図書館

• 日本

• 文庫（書庫）

• 藩士編纂書

• 寺子屋

- 例：適塾（解体新書編纂）

⇒慶應大学、大阪大学



大学/図書室

公共サービス



図書館の（利用者による）分類

- 国立図書館（**national library**）
 - あまねく国民に図書サービスを提供する
- 公共図書館（**public library**）
 - 自治体が設置する「公立図書館」
 - 地域住民に図書館サービスを無料で提供する
 - 法人等が設置する「私立図書館」
- 大学図書館（**academic library**）、
 - 大学の学生・教職員の学習・研究に必要な資料を保存し提供する
- その他、学校図書館（**school library media center**）、専門図書館（**special library**）、その他の施設に設置される図書館

大学図書館の改革

- 20世紀の学術研究の中心地アメリカにて
「**図書館は大学の心臓である**」
 - ジョーンズ・ホプキンス大学初代学長 D.C.ギルマン
 - 世界で最初に大学院を設置 = 研究大学の先駆け
- ハーバード大学における図書館改革
 - 指定図書制度：教員が学生に対し必読の文献として指定した図書を、一般図書と区別して配架し、貸出期間も通常より短い期間ないし館内閲覧のみに留めて利用できるようにする制度
- コロンビア大学における図書館改革
 - 開架式書架、レファレンス・サービス：学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、図書館員が情報そのものあるいはそのために必要とされる資料を検索・提供・回答することによってこれを助ける業務



大学図書館（1）

2018年9月に訪問

- マンチェスター大学ジョン・ライランズ図書館



<http://sekai-daisakusen.com/2017/10/18/uk03/>より

- ハーバード大学図書館（ボストン）

2017年2月に訪問

- 1530万冊（世界第4位）



ワイドナー記念図書館（300万冊）



おまけ：
ボストン公立
図書館



大学図書館（2）

- ワシントン大学スザロ図書館（アメリカ） 2018年3月に訪問



- TUデルフト（オランダ）

2017年7月に訪問



公共図書館（1）

- シアトル中央図書館（アメリカ）

2018年3月に訪問



- ニューヨーク公立図書館



2018年2月に訪問

公立図書館（2）

- チェサムズ図書館（マンチェスター） 2018年9月に訪問
 - イギリス最古の公共図書館（1653～、建物は1421）
 - ハンフリー・チェサム（織物商）の寄付で創設



K.マルクスも利用

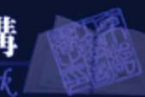
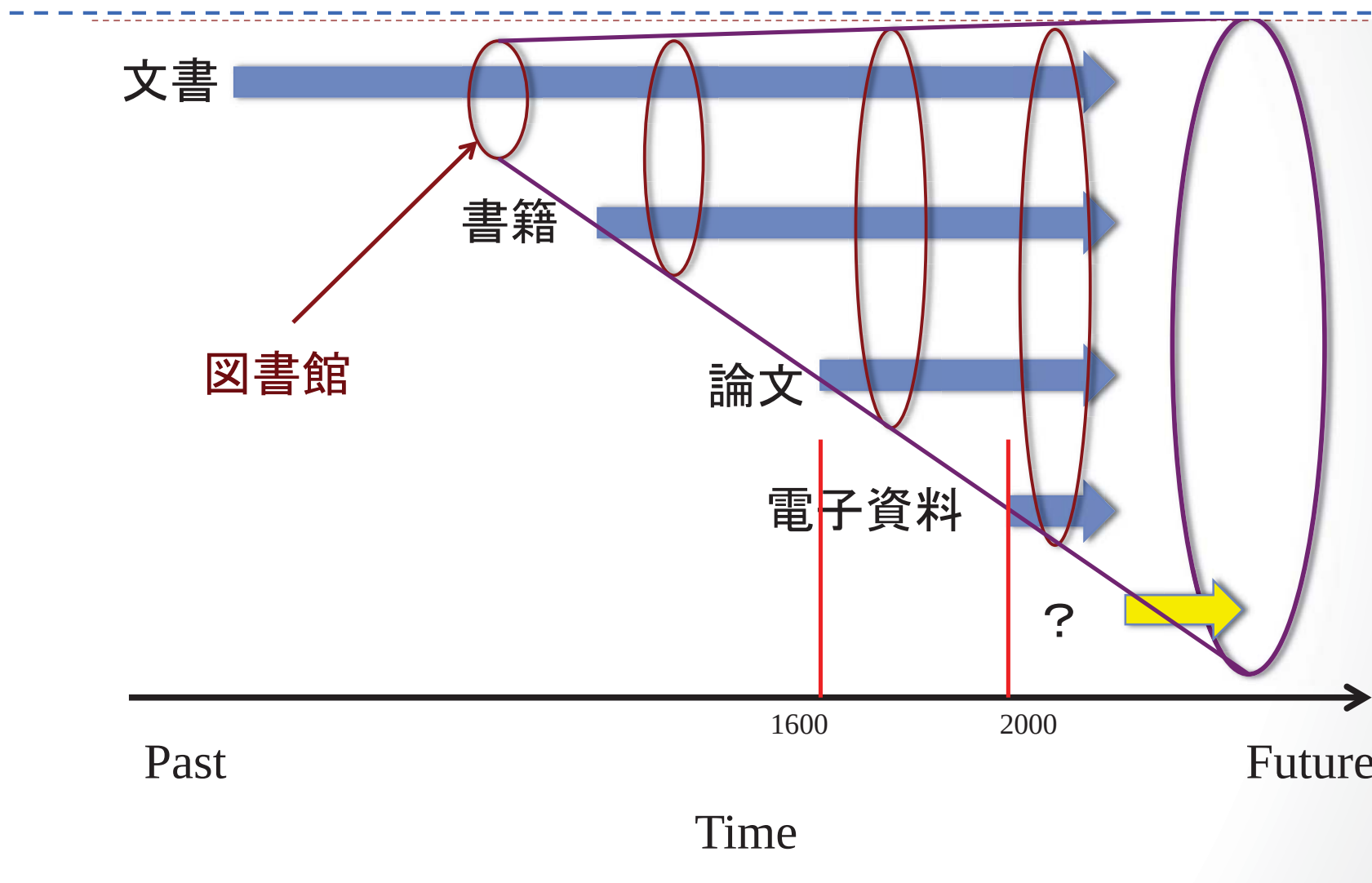
<https://www.expedia.co.jp/Chethams-Library-Manchester-City-Centre.d6079145.Place-To-Visit> より

- 大英図書館（ロンドン）
 - 国立図書館
 - 1億7千万点所蔵、
2500万冊（世界第2位）
 - 年間300万点増加

2018年9月に訪問



図書館の役割の変化



古代～近世の記録

- 木簡



<http://digitalarchives.tw/Exhibition/1583/1.html>

- 木版画



- 和紙 写本

国宝「今昔物語集」



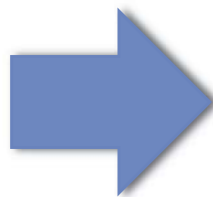
天正遣欧少年使節の記録

印刷技術の変化に伴う図書館の 役割変化



木簡
パピルス
羊皮紙
記録

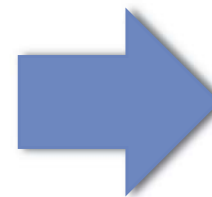
第一の革命



印刷
聖書

出版・販売

第二の革命



電子情報

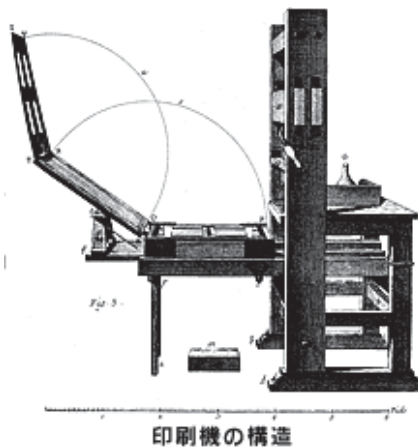
発信・公開

コンピュータ
インターネット

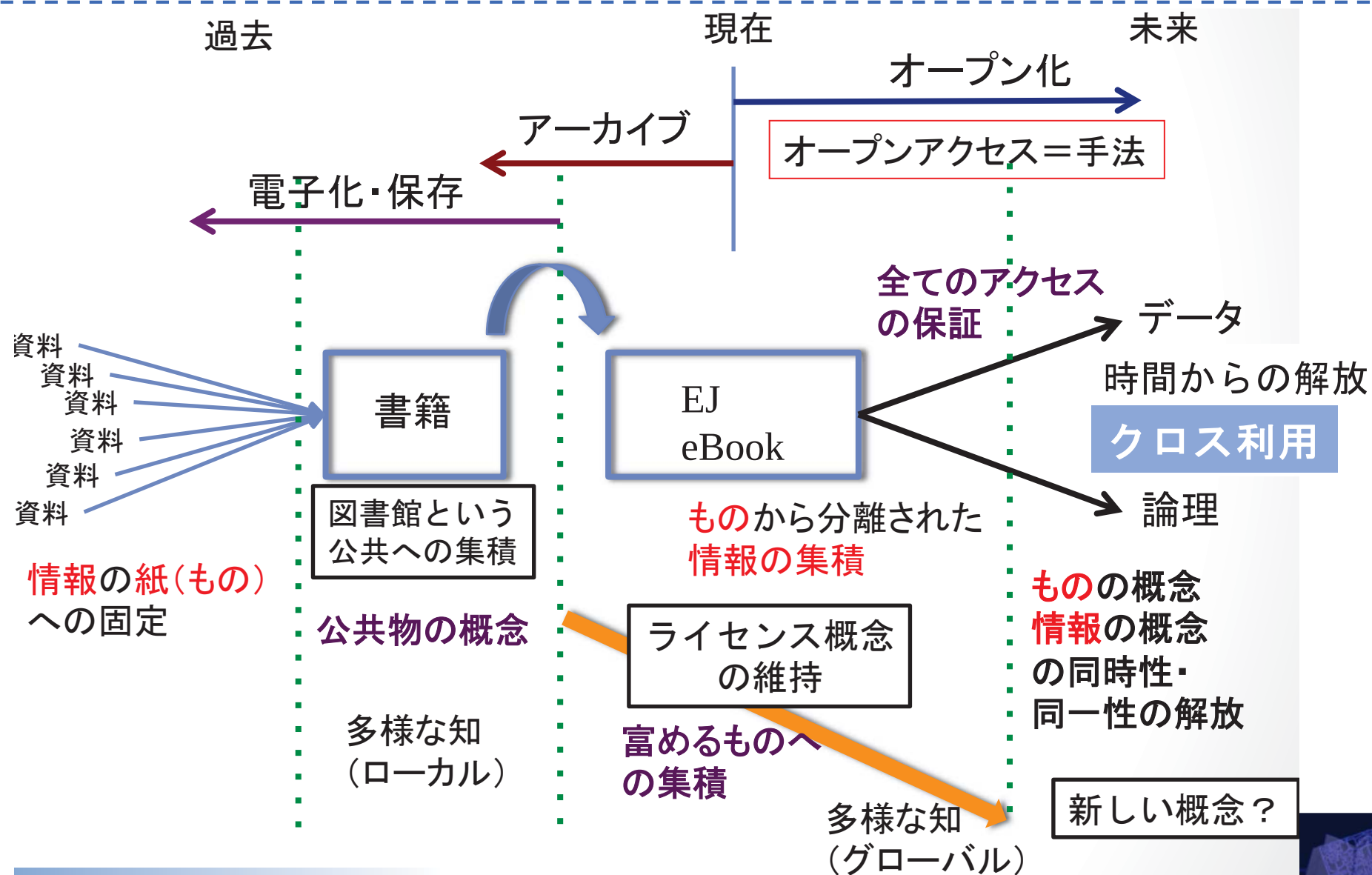
グーテンベルクの印刷機



印刷所の光景



図書とは何か？



京都大学図書館機構



<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学図書館機構

The Kyoto University Library Network

English

京都大学



図書館・室マップ



開館日程

サイト内検索

HOME

資料検索

オープンアクセス

学習/研究サポート

特殊コレクション

サービス

図書館・室一覧

図書館について

🔍 本や雑誌・論文を探す

➤ 京都大学所蔵資料

➤ 電子ジャーナル/電子ブック

➤ 論文/データベース

➤ 貴重資料画像

➤ 電子リソースへアクセスの認証

➤ 学外からアクセス

➤ 文献管理ツール

💻 オンラインで申し込む

➤ オンラインサービス利用案内

➤ 貸出更新・予約

➤ 他大学訪問利用

➤ 図書購入希望（学生用）

➤ 返却期限お知らせメール

➤ 本やコピーのお取り寄せ

➤ 新着図書・雑誌アラート

➤ 貸出履歴照会サービス

蔵書検索

論文検索

蔵書・論文+

電子ジャーナル/ブック

データベース

MyKULINE

KURENAI

図書・雑誌・電子ジャーナル・電子ブック・貴重書・学位論文を検索できます。

🔍 検索

Example: #科学, ecolog*, 湯川^秀樹, ...

🔵 [KULINE 詳細検索](#) (学内からアクセス出来ない場合の設定確認、推奨ブラウザ)

🔵 [KULINE](#) 休止中に京都大学の蔵書を検索するには



総合利用案内



図書館・室一覧



開館日程



図書館・室マップ



オープンアクセス



機関リポジトリ



蔵書・論文+



図書館員に質問する

京都大学図書館機構の基本理念 と目標



- 京都大学図書館機構は、京都大学の基本理念に基づき、世界最高水準の教育・研究拠点に相応しい学術情報基盤としての役割を担うことを使命とする。将来にわたって、京都大学における教育・研究活動を支援し、かつ国内外の学術コミュニティに貢献するために、人類の知的資産である学術情報資源や新たに生み出される知的成果を不断に収集、整理、保存し、関連する情報を発信するとともに、常に最上質の先進的情報サービスを研究開発し、提供する。

平成19年03月20日 京都大学図書館協議会承認

平成19年04月09日 役員懇談会・役員会報告

平成19年04月17日 部局長会議報告

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/about/12915>

京都大学図書館とは（１）

- 京都大学図書館機構（ネットワーク）
 - = 附属図書館を含む**50**以上の図書館/図書室
 - 合計で約**713**万冊の蔵書（約**15**万冊/年ずつ増加、国内第**3**位）、約**5**万冊の電子ブック、約**1**万**3**千種類の雑誌＋約**4**万タイトルの電子ジャーナル、約**100**種類のデータベース、約**19**万件のリポジトリ（KURENAI）（世界**4**位）
 - 附属図書館：蔵書 約**99**万冊、雑誌 約**1,800**種類
 - 吉田南総合図書館：蔵書 約**69**万冊、雑誌 約**800**種類



<http://www.opir.kyoto-u.ac.jp/study/campuslife/gallery/>

京都大学図書館機構
The Kyoto University Library Network



京都大学図書館とは (2)

- 附属図書館



- 吉田南総合図書館



- 桂図書館 (2020/4/7オープン)



図書館機構の図書館・
図書室の情報

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/map/content/liblist.pdf>

- 京大の図書館を知りたいければ、、、

- 京大の「実は！」 Vol.19 「京都大学附属図書館の実は！ - (1) 前編・施設内部徹底紹介！ -」
 - <http://www.kyoto-u.ac.jp/static/ja/issue/mm/jitsuha/2014/140626.htm>
- 京大の「実は！」 Vol.20 「京都大学附属図書館の実は！ - (2) 後編・サービス徹底活用術！ -」
 - <http://www.kyoto-u.ac.jp/static/ja/issue/mm/jitsuha/2014/140731.htm>

自学自習、読書、議論の場



学習室24



グループ学習室

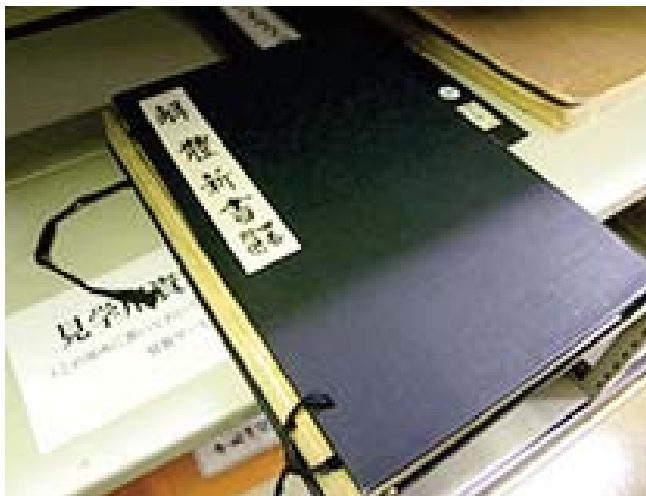


ラーニング・コモンズ

貴重な資料に出会える場



野口英世
の論文も
読めます



解体新書も
あります



思索の場



サイレントエリア



学習個室



メディアコモンズ

論文の書き方を学ぶ場



学習サポートデスク
@ラーニングコモンズ





図書館の資料

- 図書（電子ブック含む）、参考書
- 新聞、雑誌（学術誌、一般誌）
- 学内刊行物・教員著作物
- 国際関係機関関係資料
- 官公庁刊行物
- 視聴覚資料（CD、DVD）
- 電子ジャーナル
- データベース
- 貴重資料（公開資料、電子化資料）
- オープンアクセスアーカイブ
- リポジトリ（KURENAI）

資料は国内のみ
ならず世界中か
ら取り寄せこと
ができます！



研究活動とは

- 科学研究活動は、
 - 1) 研究計画をたて、
 - 研究の意義、研究の妥当性について検討
 - 2) 計画に基づく研究を進め、
 - 研究不正行為（捏造、改竄）を行わない
 - RDM：研究データ管理
 - 3) そして研究成果を発表する⇒論文
 - 先行研究業績の権利（著作権）を守り、尊重する
 - 科学者は何をしたのか（方法：研究についての十分かつ公平な記述）、②科学者は何を見いだしたのか（結果：結果についての正確な報告）、③科学者はその結果から何を導こうとしているのか（考察：知見についての誠実かつ公平な評価）の3点を明確に記述

という3つの段階から構成される

資料としての論文のはじまり



- *Philosophical Transactions of the Royal Society* (創刊Mar. 6 1665)

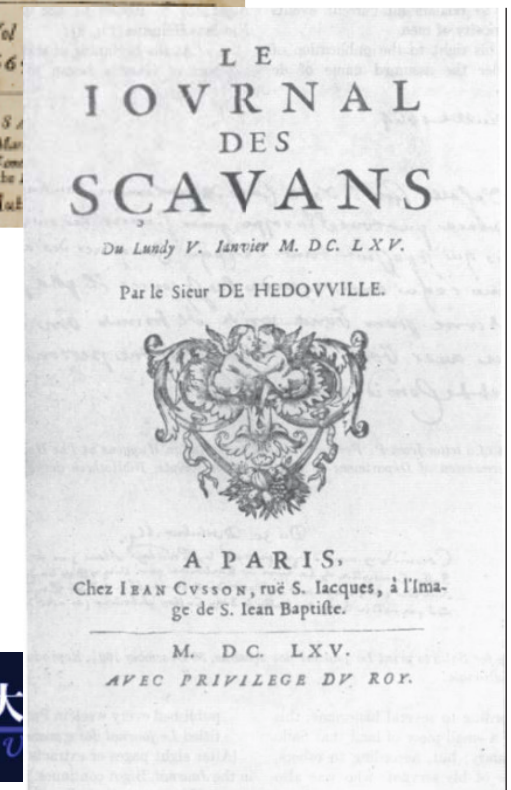
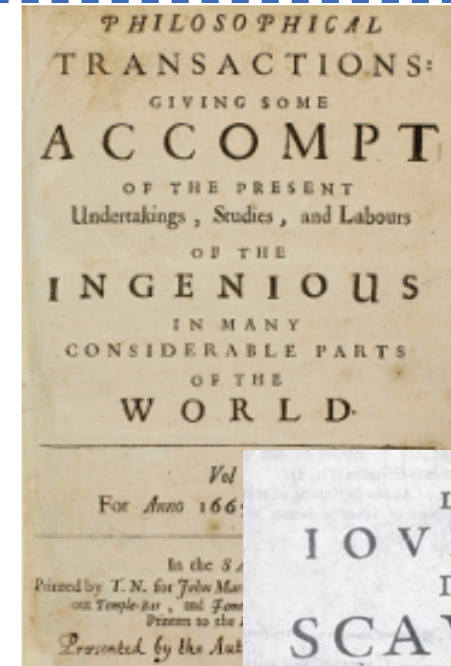
<http://rstl.royalsocietypublishing.org>

- 世界最古の学術論文誌の1つ (今も存続!)
- ロンドン王立協会(創立1662年)の書記 Henry Oldenburgの個人事業としてスタート
- 研究成果を論文という形式で掲載する定期刊行物
- 会員相互の知的交流を促すPeer reviewシステム
- 科学的観察と実験に特化

- *Le Journal des sçavans* (創刊Jan. 5 1665)

- Denis de Salloにより創刊。ヨーロッパで最初の文学および科学雑誌
- 芸術と科学の新しい発見を報告することを目的→科学者間のコミュニケーションを促進
- 木版画による図を多用

https://fr.wikipedia.org/wiki/Journal_des_savants



論文は何をもたらしたのか

- 論文が出版されるまでは、、、
 - 書籍の出版 印刷書が内容を保証
 - 手紙 相互の連絡の記録
 - 特許の取得 技術の先取権



質の保証が担保されない
誰の成果なのか曖昧
学問・研究の蓄積が為されない

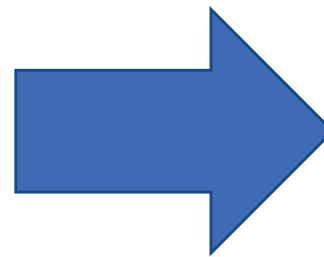
- 論文が出版されて
 - 編集者が論文内容の先取権を管理・保証
 - 出版内容の評価 Peer Review
 - コミュニティ（学会）の創成

質の保証が担保
誰の成果か明確
学問・研究の蓄積



論文データベース

- 何のために文献を検索するか
 - 観点の整理
 - 研究の価値の共有
 - 論理の裏付け
- 引用のルール
 - 肯定的引用
 - 孫引き
- 先行研究のリスペクト
 - 研究のコンセプトへの敬意
 - 成果の再発見



Web of Science

- トムソン・ロイヤーの子会社が提供する学術データベース
 - 約12,000誌

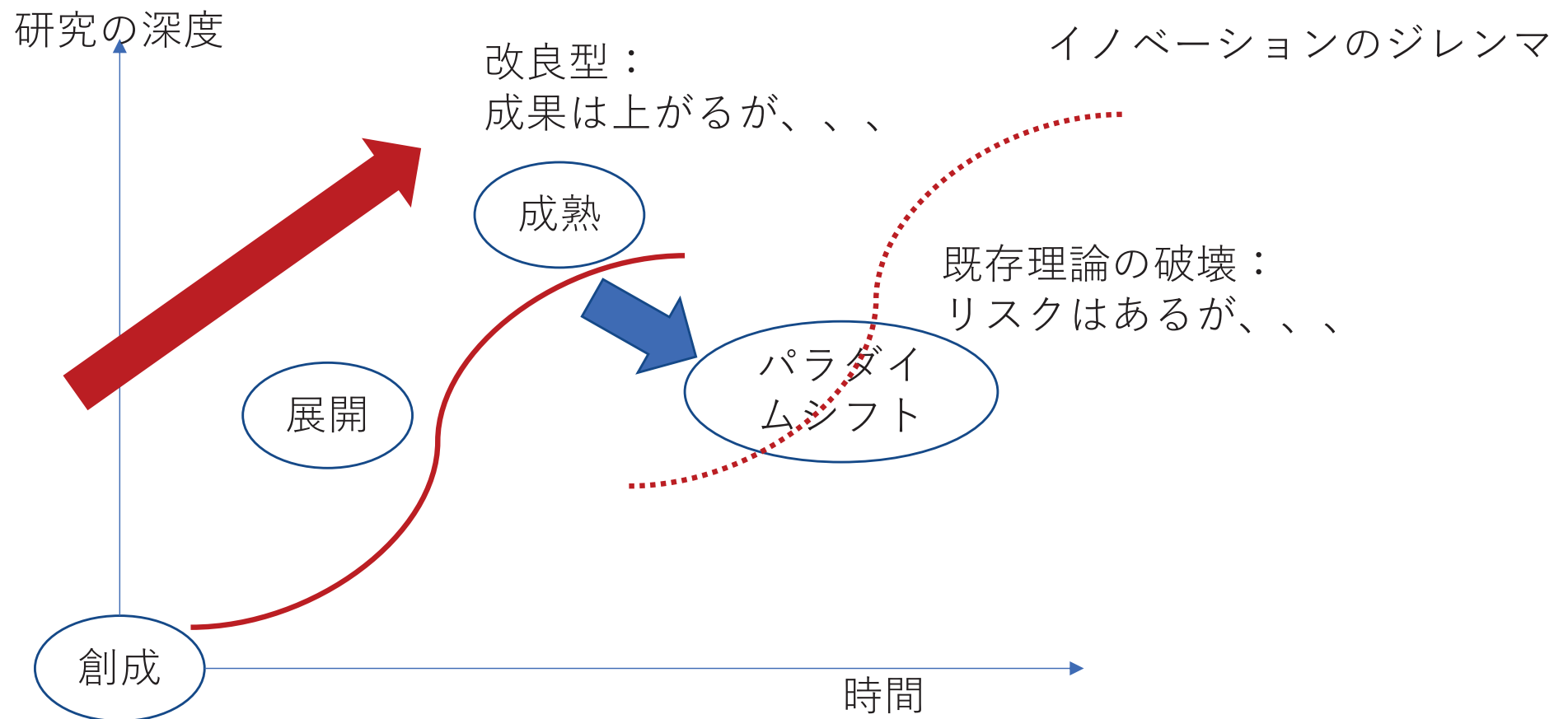
Scopus

- エルゼビアが提供する学術データベース
 - 約22,500誌



研究者が目指すこと

- 既存の研究成果をベースに新たな知見を積み重ねる



- 図書館の役割は？

新しい流れ:Open Science

- 発見を発明する
 - 集合知の有効活用
 - オンラインツールは私たちを賢くする
 - 専門家の注意を効率よく誘導する
 - オンラインコラボレーションの成功条件
 - 集合知の可能性と限界
- ネットワーク化された科学
 - 世界中の知を掘り起こす
 - 科学の民主化
 - オープンサイエンスの課題
 - オープンサイエンスの必要性

⇒何をオープンするのか？

- 成果：オープンアクセス、オープンデータ、、
- 担い手：あらゆる人が研究活動に参加・関与



マイケル・ニールセン，高橋洋訳『オープンサイエンス革命』，紀伊国屋書店，2013

研究成果は誰のものか？

- 公的資金による学術研究成果を自由に見られないのはなぜか？（TED×MileHighWomen）

by Erica Stone

- アメリカでは皆さんが納めた税金が、公立大学の研究費に使われています。それなのになぜ、その研究成果を読むのに営利的な雑誌に高いお金を払わなければならないのでしょうか？エリカ・ストーンは、オープンアクセスという大衆と学者の間の新しい関係を支持し、学者はもっと身近な媒体で研究成果を発表すべきだと主張しています。ストーンは言います。「民主主義が機能するには国民が良い教育を受け、情報を得られることが必要です。研究は有料サイトや煩雑なしくみの背後で行われるのではなく、みんなの目の前で展開されるほうが、良いとは思いませんか？」
- <https://headlines.yahoo.co.jp/ted?a=20180403-00012908-ted>
- https://www.ted.com/talks/erica_stone_academic_research_is_publicly_funded_why_isn_t_it_publicly_available?language=ja



Open Access（公共知の共有）



- 主に学術情報の提供に関して使われる言葉で、広義には学術情報を、狭義には査読つき学術雑誌に掲載された論文をインターネットを通じて誰もが無料で閲覧可能な状態に置くこと
 - <http://ja.wikipedia.org/wiki/オープンアクセス>
 - 米国：税金を投入した研究成果のパブリックアクセス義務化（アメリカ合衆国の法律制定による）
 - 日本：学位論文（博士論文）の電子公開義務化（平成25年4月1日）
 - 世界：OATD（Open Access Theses and Dissertations）に日本の学位論文も登録済み
- 機関（組織）が所有するデータや情報を体形立てて保管・公開するデータベース⇒機関リポジトリ

京都大学のオープンアクセス 方針宣言



図書館機構：「京都大学オープンアクセス方針」を採択しました

投稿日時：2015-05-07 (12689 ヒット)

京都大学は、2015年4月28日に「京都大学オープンアクセス方針」を採択しました。これは、京都大学の教員が生み出した学術論文等の研究成果を、「京都大学学術情報リポジトリKURENAI」によりインターネット上で原則公開することを、教員の義務とするものです。

※京都大学オープンアクセス方針は、平成27年度中に実施開始予定です。詳細が確定次第、学内へ広報いたします。

■京都大学オープンアクセス方針

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/uploads/oapolicy.pdf>

http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/content0/index.php?content_id=92

■京都大学学術情報リポジトリKURENAI

<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/>

http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/content0/index.php?content_id=88

【図書館機構長より】

研究成果をオープンアクセスとすることは、研究者間でコラボレーションを促進し、研究分野を超えた新たな知の創出に道を開く大きな力となると考えられます。同時に、学術研究に従事する者が社会に対して果たすべき説明責任を明確にします。このオープンアクセスという概念は世界的にも急速な広がりを見せていますが、我が国ではこれまでのところ、関心の高い一部の研究者の努力により推進されてきました。しかし、この度京都大学は、全学方針の採択により、大学としてオープンアクセスを推進する姿勢を明らかにしました。

KURENAIは、2006年の運用開始以来、教員が自発的に提出した研究教育成果を登録してきましたが、現在では、13万件以上の本文データが閲覧可能な、国内最大規模の機関リポジトリとなっています。「京都大学オープンアクセス方針」の採択により、京都大学は、より多くの教育・研究成果をKURENAIで広く公開し、学術研究の発展に寄与するとともに、大学としての社会的責任を果たしていく所存です。

引原 隆士

• 日本で最初

• 研究成果は自ら公開する

• リポジトリ：
KURENAIと共に運用

• <https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/>

京都大学図書館機構

The Kyoto University Library Network



KURENAI (京都大学のリポジトリ)



← → ↺ https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/

ホーム ブラウズ アクセスランキング アクセス統計 京都大学 図書館機構

Q Language

京都大学学術情報リポジトリ
KURENAI 紅
Kyoto University Research Information Repository

Kyoto University Research Information Repository



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

京都大学学術情報リポジトリ (KURENAI) では、オープンアクセスを推進するプラットフォームとして、京都大学で日々創造される研究・教育成果（学術雑誌掲載論文、学位論文、紀要論文など）をインターネット上で公開しています。

2018年3月末現在 ●収録論文 17万2千件 ●紀要 約240誌 ●論文ダウンロード 500万件以上(2017年度)

- KURENAIが世界機関リポジトリランキングで第5位になりました (2018/12/11)
- リポジトリ登録システムからの依頼メール送信を開始しました(2018/11/01)
- オンデマンド型オープンアクセス方針説明会のプレゼン例を公開しました (2018/01/23)
- リポジトリ運用指針を改定しました (2017/08/01)
- 京都大学学術情報リポジトリKURENAIをリニューアルしました (2017/05/22)
- リポジトリ登録システムの本運用について (2017/04/27)
- オンデマンド型オープンアクセス方針説明会の開催依頼を受け付けます (2016/07/07)
- 京都大学学術情報リポジトリKURENAIで公開している博士学位論文にDOIを付与します (2015/12/22)
- 「京都大学オープンアクセス方針」を採択しました (2015/05/07)

KURENAI update!



KURENAI update!
@KURENAI_update



『ICR Annual Report』2018（発行：Institute for Chemical Research (ICR), Kyoto University）を京都大学学術情報リポジトリKURENAIで公開しました (hdl.handle.net/2433/240660)。



KURENAI update!

Apr 5, 2019



KURENAI update!

研究科等一覧

下記のリンクより学位論文および研究科等で発行する学術雑誌や紀要にアクセスできます。

001 総長

6

002 学位論文

26294

003 科研費報告書

412

Google Custom Search

Search

京都大学 Kyoto University
オープンアクセス方針
Open Access Policy

科研費 科研費
KAKENHI 論文の
オープンアクセス化
を進めましょう KURENAI 紅

登録手順 [学内の方へ] 研究・
教育成果を登録する

リポジトリ
登録
システム
KURENAI Deposit System

▼学術情報リポジトリKURENAI
に登録するための著作権
▼KURENAIによるセルフアーカイブ
▼オープンアクセスとは

京都大学発行
電子ジャーナル

館機構

Network

京都大学研究データ管理・公開ポリシー



2020年4月

京都大学研究データ管理・公開ポリシー

京都大学は、「研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う」とともに、「世界に開かれた大学として、自由と調和に基づく知を社会に伝える」ことを基本理念として掲げている。研究活動の過程で生み出される研究データを適切に管理・保存し、また公開により利活用を促進することは、研究データの価値を守り高めることであり、それによりこれらの理念を具現化し、学術研究の広範囲にわたる発展と地球社会の調和ある共存に大きく貢献することができる。

そこで、京都大学で行われる研究が多様であることを踏まえ、研究データの管理・保存・公開に関して、それぞれの研究分野における法的および倫理的要件に従うことを認め、それらを最大限尊重した上で、学術研究の発展と京都大学における将来の研究を守るため、指針として京都大学研究データ管理・公開ポリシーとして以下の原則を定める。

1. 本ポリシーにおける「研究データ」とは、本学の研究活動の過程で研究者によって収集または生成された情報を指し、デジタル・非デジタルを問わない。
2. 京都大学において、研究者は研究データを適切に管理・保存すること、すなわち研究データ管理は、優れた研究を行う上で必要不可欠であると認識する。
3. 京都大学は、原則として、研究データを収集または生成した研究者が、研究データ管理を行う権利と責務を有していることを認め、研究者は、研究データの価値を守るため、それぞれの研究分野における法的および倫理的要件に従って研究データ管理を実施する。
4. 京都大学は、研究データが、論文などと同様に、今後の学術や社会の発展に貢献する知の基盤の一つであるとの認識に基づき、特段の定めがある場合を除き、可能な限り社会に公開し、その利活用を促進する。
5. 京都大学は、研究データ管理および公開を支援する環境を整える責務がある。

なお、社会や学術状況の変化に応じて、適宜本ポリシーの見直しを行うものとする。

- 日本の大学で最初
- 研究データの価値を認め、研究者にとって研究データ管理が必須であること
- 研究者が研究データの管理を行う権利と責務を有すること
- 出来る限り、研究データを社会に公開し、その利活用を促進すること
- 大学は、研究データ管理・公開を支援することを原則として定める

京都大学図書館機構
The Kyoto University Library Network



新しい「知の集積」

- 集合知としてのWikipediaの登場
 - 性格
 - そもそも絶対的な解釈は無い
 - 辞書の成り立ちと同じ過程をオンラインで構築
 - 長い年月で専門家が構築した知見を短時間で多数の利用者で構築
 - 特徴：
 - 簡便性
 - 匿名著者
 - 記述内容の客観性と公開性（情報の公共性）
 - 複数解釈の表示を許容（リアルタイム）
 - 構築が完成するまでの時間短縮
- 既存の「知の集積」＝図書館との関係は？
 - 図書館は、どう差別化するのか



大学図書館の役割：Until Now



- これまで
 - (限られた) 研究者・学生のための「知の集積」
 - 知識の蓄積・伝達・継承＝アーカイブ(**archive**)
 - 「知の集積」を前提とした研究活動
 - ⇒図書館：新しい知の創造の場
- 現在
 - デジタル化・情報化・オープン化の進展
 - ⇒新たな「知の集積」の誕生
 - 図書館の役割変化が求められている！
 - しかし、多くの大学図書館が進めた「ラーニングcommons」設置は、教育支援に特化しすぎ
 - 図書館である必然性は？



大学図書館の役割：To Future



- これから
 - 図書館が新しい知の創造の場となるためには
 - 研究・学びの場、
 - 研究・学びを学ぶ場、
 - そして、研究・学びを実践する場へ
 - さらに、一層のデジタル化が進展する中で、大学図書館のデジタルトランスフォーメーション（DX）が必然となっている。
 - 特に、今回の新型コロナ対応で得られた知見を活かした対応が必要とされている。
- 当然、京都大学図書館も、、、